



## 2019年度 玉川学園・南大谷地区 市政懇談会

### 次 第

[日時] 2019年10月24日(木) 14:00~16:00

[場所] 玉川学園さくらんぼホール

司会進行 市民協働推進担当部長 平林 隆彦

玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会 会長 徳力 幹彦

#### ○連合会長の挨拶

玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会 会長 徳力 幹彦 (5分)

#### ○市長の挨拶

町田市長 石阪 丈一 (5分)

#### ○職員の紹介

(5分)

#### ○市政懇談会について

(5分)

#### 第1部 地域からの議題に関する意見交換

(55分)

1 玉川学園地域の避難施設について

【防災安全部】

2 避難施設の防災備蓄品について

【防災安全部】

3 玉川学園地域の災害時医療体制について

【保健所】

4 市民の文化活動のための場所について

【文化スポーツ振興部】

5 南大谷地域の交通環境整備について

【道路部】

#### 第2部 市政全般に関する意見交換

(40分)

市長からの市政報告

#### ○閉会の挨拶

(5分)

玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会 副会長 和田 矩一

2019年度 玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会 市政懇談会  
議事録(要旨)

[日 時] 2019年10月24日 (木) 14:00～16:00

[場 所] 玉川学園さくらんぼホール

[出席者] 石阪市長

政策経営部広報担当部長 若林

防災安全部長 篠崎

文化スポーツ振興部長 黒田

道路部長 福田

保健所保健総務課長 樋口

市民部市民協働推進担当部長 平林

市民部市民協働推進課長 中坪

市民部市民協働推進課担当課長 (地域担当) 大場

市民協働推進課(3名)

玉川学園・南大谷地区町内会自治会連合会会長 ほか13名

司会進行：市民協働推進担当部長

玉川学園・南大谷地区連合会会長

### ○地区連合会長の挨拶

7月23日に市長と語る会という形で市長からいろいろな説明をしていただきましたが、今回は、こちらから議題を提出して、それに対して説明していただけることになっています。私たちは町内会・自治会が10あるのですが、そのうちの3つのところから、ここにあるように5題の議題が提案されています。ぜひこの提案に関して質疑応答ができればと思っています。よろしく願いいたします。

### ○市長の挨拶 (町田市長)

皆さん、こんにちは。市長の石阪でございます。日ごろから大変お世話になっております。改めて御礼を申し上げます。

今日は、このさくらんぼホールで玉川学園・南大谷地区の市政懇談会ということでございます。本来、たくさんの方に集まっていただくのが趣旨なのですが時間の制約もあり、この地域では昼間の時間となっています。ただ、今、会長からも話があったとおり、市長と語る会もやっていますので、いろいろな機会を設けてご意見をいただくことをしていくことで、今日来られなかった人もお話に参加いただけるのではないかと思います。

それから、最近、高校生や中学生と話をする機会を持っています。一番近いのは町田駅に近いまあちという子どもセンターでやったり、この間は、鶴川の子どもセンターつるっこで中学生と高校生とお話をさせていただきました。そういう意味では、いろいろな世代の方からいろいろな意見をいただきながら仕事をする、そのようなやり方にしています。

最近の市政の報告については、第2部で市長からの市政報告をさせていただいて、市政全般に関する意見交換の時間をとってあります。5つの議題のほかの問題であれば第2部のほうでとなっていますので、どうぞよろしくお願いたします。

## ○出席者の紹介

### 第1部 地域の要望に関する意見交換

#### 1 玉川学園地域の避難施設について

(1)大規模災害発生時の避難施設として町田第五小学校が指定されていますが、いつ開設され、どのように避難者を受け入れるのか、改めて確認させてください。

(2)玉川学園地域は避難施設が町田第五小学校のみで、地域防災計画の避難者想定を前提にすると3千人～6千人の避難者が町田第五小学校に避難すると予想されます。この問題に対応するため、三井住友海上玉川研修所を避難施設として使えるようにするのはいかがでしょうか。

#### 【回答】

#### 防災安全部長

##### 1- (1)

町田市では、町田市地域防災計画で、震災時及び風水害時の避難施設を定めており、町田第五小学校は地震災害と風水害の避難施設になっています。地震災害時においては、震度6弱の地震が発生すると避難施設を自動的に開設することとしております。風水害時においては、浸水被害や土砂災害などのおそれが生じた際、町田市が避難勧告等の避難を促す情報を発令するときに開設いたします。

地震災害を例にしてご説明いたしますと、施設の開設や施設内の安全確認などの具体的な開設方法や避難者の受け入れ、その後の運営の基本的なことにつきましては、自主防災組織の皆様、学校教職員、市職員の三者の話し合いを通して作成した「避難施設開設・運営マニュアル」で定めております。

今後も皆様と話し合いを行い、マニュアルを充実させていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

## 1 - (2)

2018年度に実施した避難施設別避難者数推計では、町田第五小学校の避難者数は3738人となっています。町田第五小学校の「避難施設開設・運営マニュアル」によりますと収容可能人数は、体育館257人、音楽室74人、図書館67人など、最大で1859人になっており、不足人数は1879人と予想されます。

ご提案いただきました三井住友海上火災保険の玉川研修所を避難施設として使用することにつきましては、今年の6月に三井住友海上火災保険と協議の場を設けさせていただきましたが、施設管理者が不在の時間があるなどの課題があり、現段階では合意に至っておりません。町田市としては、今後も合意に向け引き続き協議をしていきたいと考えております。

### 《質疑》

#### 玉川学園町内会

体育館ですと2m幅の通路、教室ですと1m幅の通路を設けないと、人のスペースで出入りすることになってしまいます。そのようなスペースを設けると人数はかなり減ることになり、実質1800人は難しいと思います。ただ、新潟の中越地震では、そのような避難施設がなくてどうなったかということ、廊下、階段をスペースにして収容した事例があるので、そういうことをすると1800人できるかなという気がしますが、それは異常事態ですから、普通に考えると1000人は割ってしまうという気がしています。ぜひ三井住友さんとは丁寧に協議していただいて、できるだけうまく交渉していただければと切に願っています。よろしく申し上げます。

#### 防災安全部長

町田第五小学校の地区は、ほかの地区でやっています避難施設関係者連絡会をより発展させて、今月から地域主体でやっていこうということで、我々にもお話をいただいています。その中で、今の案件も含めてしっかりとお話をさせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

#### (司会) 地区連合会長

私たちの町内会は大きいものですから環境部長、防災部長ときちんと分けているのですが、この手の問題は全部防災部長がやっておられるので、済みません、よろしく申し上げます。

## 2 避難施設の防災備蓄品について

避難施設の防災倉庫には、ハンドソープ、アルコール手指消毒薬、次亜塩素酸ナトリウム、サージカルマスクとレスピレーター、使い捨ての手袋、使い捨てのガウン、屋内履き、ペーパータオル、体温計などの感染症拡大防止

に必要な物資が備蓄されていません。また、要配慮者向けの備蓄品として、簡易ベッドやポータブルトイレなども用意されていません。そうした衛生関係、介護関係の物資も備蓄しておくべきだと思いますが、いかがでしょうか。

## 【回答】

### 防災安全部長

ご意見ありがとうございます。

まず、「感染症拡大防止に必要な物資」についてですが、普段、日常生活を送る上においても、ハンドソープやアルコール手指消毒薬などは、予防の観点から有効だと考えます。

避難施設とした場合、水が使用できないことを想定し、ウェットティッシュを置く。トイレには、足元に付着した排泄物による汚染拡大を防ぐため、履物を置く。人が多く集まることから、発熱、咳の症状がある際は、感染症の可能性も考えサージカルマスクを使用するなどが考えられます。

さらには、嘔吐してしまった場合などに汚物を掃除する際、手や体の汚染を防ぐ、使い捨て手袋やマスク。掃除した箇所を拭き取るとき消毒作用として使用する、次亜塩素酸ナトリウムがあると効果的だとは考えられます。

しかしながら、限られたスペースの防災倉庫に備蓄する必要最低限なものであるか否かということ、また、防災倉庫は温度管理ができないため、保管上の問題もございますので研究課題とさせていただきます。

次に、ベッドなどの要配慮者用の備蓄品についてですが、簡易ベッドについては、2017年に東日本段ボール工業組合と災害時の物資供給にかかる協定を締結しており、段ボール製簡易ベッドが提供されることになっております。

トイレについては、マンホールトイレ10基、仮設トイレ4基を準備しております。このうち要配慮者の方向けとして、仮設トイレ4基のうち1基は、車椅子の方も利用しやすい仕様となっております。これに加えて、学校施設に設置されている「みんなのトイレ」などのトイレ個室を利用し、凝固剤で固めて処理を行う簡易トイレを8台備蓄しております。

おむつについては、子ども用及び高齢者用について、想定される3日分を備蓄しております。

## 《質疑》

### 玉川学園町内会

要介護レベルの人たちについては2次避難施設に移送するという話がありました。我々は、それを期待しているのですが、なかなかその辺の話が具体化されていないという話を聞いています。そうすると、その方たちを介護するためには、ベッドがないと介護者の負担になるので、そういう意味で書いたのです。確かに段ボールをそういう協会と契約して持ってくるという話は

聞いているのですが、これは初めからないとなかなか難しいです。ですから、できれば少量でもいいので最初から避難施設に備蓄しておいて、足りない部分を補充するような形がとれないかなという気がしています。確かに防災倉庫がどんどんふえていくという現実はあるのですが、最小限必要なものはどうしても手元にないと、多分、発災して3日、4日たって持ってこられても問題が起きると思います。特に衛生関連のものについては避難者が来られた瞬間から必要になるものなので、2次避難施設に移送すべき人たちを一時的にでも預かるというのであれば、本来であれば、そういった備品についても充実していただきたいと考えています。

### 防災安全部長

おっしゃるとおり、最初からあるのが一番いいのですが、なぜ協定で調達することにしたかという、どうしても保管場所が限られてしまうので難しいということをやっています。ちなみに、段ボールベッドですが、何日もたってからでは遅いのではないかというご意見をいただきました。実際に今年も長野市に職員を派遣していますが、数日の間にかなりの量の調達ができて、皆様お使いいただいているという事例があるので、保管場所がどうなるかということが課題ですので、今のところは協定に基づいて調達する方法がベターなのかなと考えています。

あと、2次避難施設ですが、おっしゃるとおり、まずは普通の避難施設としてあけて、それから2次避難施設として指定している施設側の、ふだんの通所、入所の方のご都合もあるので、そちらを確認してからあけますので、この地区についても具体的にどのようにするかを内部で確認させていただきます。

### 玉川学園町内会

ありがとうございました。できれば、ベッドに関しては、大体発災してからどのくらいまでの間に避難施設に届けることができるか、その辺の輸送のスケジュールについても開示していただければ、多分地域の人たちは安心できると思います。

あと、消毒剤に関しては、多分、そんなにスペースをとらないのではないかと。特に次亜塩素酸は希釈するものですから、そこそこの備蓄で数日間のはしのげるわけですから、別に2週間分よこせという話ではなくて、市の体制が整って、避難施設にそれぞれ後で送るという体制ができ上がるまでの期間だけしのげればいいので、そういう意味では、何か対応していただけないかと、お願いしたいと思います。

### 防災安全部長

段ボールベッドについては、実際には地理的にどれぐらいの範囲で被害が出るか、例えば東日本みたいに広範囲なものと、もう少し範囲が狭い地域が被災する場合とで違います。長野では、数日後にうちの職員が行ったときには既に来ているという状況でした。あと、東日本段ボール工業組合というところから来るのですが、東日本、西、九州と地域別に組合が分かれています、東日本で全体的に大きな災害があると別の地区の組合で調達するという取り決めになっているので、そういう意味では、被災地域が広くても調達はできるのですが、どれぐらいの範囲で被災するかによって、届くまでに少し時間差があると思います。

あと、次亜塩素酸ナトリウムの話ですが、少しの量は既にありまして、それは、ろ水器で水をろ過するときに使うためのものなのですが、確かに希釈して使いますのでスペース的には大きなものにはならないのではないかと思います。ご意見もありますので、参考にさせていただきたいと思います。

## 玉川学園町内会

昨年の市政懇談会で、各地区の防災倉庫の備蓄量の調整の話をお伺いしまして、その回答が今年7月の市長と語る会で、市長から、備蓄量の調整は全体の調整が終わらないと発表ができないというお話を伺ったのですが、その後の進捗度合いを教えてくださいたいと思います。

## 防災安全部長

町田第五小学校の場合はすごく人数が多いところになりますが、一方すごく少なくて済んだところとありまして、今どれぐらいの量をそこの学校に置けるか、あるいは学校だけで足りない、そこの地区内の違うところに置けるかというところはかなり難しい計算になっていまして、まだ、こうですとご説明できる段階ではないのですが、できるだけ避難者数の想定が多い人数が出ているところから対応できるようにしていきたいところがございます。はっきりしたお答えにならなくて済みません。

## 玉川学園南台

防災関係、備蓄品に関連するかもしれませんが、先ほど別な避難施設の関係で三井住友海上のお話がありました。質問者は昭和薬科大学のお話をされていたかと思います。昭和薬科大学の中にある施設を一部市の備蓄用倉庫として借用したいという働きかけは、市からはされているのでしょうか。

## 防災安全部長

昭和薬科大学については、備蓄品を置く場所としての協議はまだなのですが、避難施設として利用できるかという話は、先ほどの三井住友海上の話と

ほぼ同じ時期に協議させていただいています。大きな問題が2つありまして、1つは、一般の方も出入りしやすいホールのようなスペースがあるのですが、ガラス張りのつくりになっていまして、恐らく皆様の避難が必要だというときには入れることができない建物だという回答がありました。もう1つは、もう少し奥のふだん学生しか入らないスペースはどうかという話をしたのですが、薬科大学ですので、一般の方が来てしまうとかなり危険なものが収納されているスペースが多いということで、慎重に考えなければいけないということで、すぐにはお返事できない、難しい問題がありますという状況です。

## 玉川学園町内会

建物の中はさすがに難しいかなと思っています。できればグラウンドをお借りして、三井住友もそうですが、テントを張って、そこを避難施設とするという考えはいかがでしょうか。テントで家族が住めるようなものがありますので、海外ではよくそのような形で避難所を開設する例があります。かえってそのほうがプライバシーが保たれていいという話もあるので、ぜひその辺も検討していただければと思います。

## 防災安全部長

グラウンドの利用ということで、お答えする前に少しお断りがありまして、熊本地震のときにテントを利用した避難生活があったのですが、東京と事情が違いまして、車で移動していった方が非常に多かったのですが、東京都の場合は町のつくりも違うので、東京都の条例で、地震災害が発生したときに車を利用してはいけないということがありまして、まずそれをお断りさせていただきます。ただ、今ご意見をいただいたのは、この地域の方がということですので、恐らく熊本と同じ事情ではないとご理解いただけたと思います。今までは車の利用制限もあるので、町田市ではテントを使って避難生活という想定はしてきていません。昭和薬科大学でグラウンドを開放するかどうか、まだご意見をいただけていません。10月から、玉川学園地区では地域主体で運営会が発足されました。そこにオブザーバーで私どもの職員も参加させていただくことになっていますので、具体的にはそこで意見交換をさせていただきたいと思います。戻りましたら、担当者にもこのようなご意見があったとお伝えいたしますので、よろしくお願いします。

### 3 玉川学園地域の災害時医療体制について

町田第五小学校は、準救護連絡所に指定されていますが、これは「局地災害の場合、必要に応じ開設」となっています。このことから、首都直下地震のような広域災害時は医療の空白地域になるのではないかと危惧されています。そこで質問します。

- (1) 町田第五小学校を震災時医療拠点に指定すべきではないか。
- (2) 震災時の感染症対策や在宅医療対策として、地域の内科系クリニックをいくつか開業できる体制が必要ではないか。

## 【回答】

### 保健所保健総務課長

- (1) 災害時の医療体制につきましては、町田市医師会と相談の上決めており、現時点では、震災時医療拠点を新たに指定する予定にはなっておりません。
- (2) 震災直後は、活動できる医師に限られるため、あらかじめ指定された病院に医師など医療従事者を集約する体制を想定しております。これについても、町田市医師会と相談の上決めており、地域のクリニックを指定し、医療を提供する体制は予定していません。

## 《質疑》

### 玉川学園町内会

昨年も似たようなご回答でした。過去の震災事例を見ても高齢者の被災数が非常に高いところです。そういった上で、医療体制が不安定だと、市民としては非常に不安に思うところで、どうなっているのだという話が私のところにも結構来ています。多分医師会を説得するという話でしょうけれども、もう少し頑張っていたきたいと。

先ほどちょっと、医療班、そういうものがあるのですか。キャラバンみたいなものが走り回るということでしょうか。それを期待してよろしいのでしょうか。

### 保健所保健総務課長

通称DMATと申しまして、これは救命救急だけを目的とするプロフェッショナルなチーム構成です。厚生労働省で研修を受けて、DMAT隊としての認証を受けたチームが今1700弱ぐらいあると聞いています。被害の甚大さによって、町田だけでなく各市に配置されるので、確約ということまではいかないのですが、最初から空白地域はそういった意識を高めつつ、そういったものを配備するということを医療コーディネーター等々と今話をしているところなので、実際の配置は、現段階では申し上げられないのですが、そういったところを優先的に配備するように考えているところです。

### 玉川学園町内会

もう一遍、さっきの震災時に医療拠点にするのは難しいというお話は、どこが難しいのでしょうか。そこを我々は全く知らないのです、なぜなのだと。市の方針では拠点病院から2km以内に全て包含してあげるよというふうにな

っているにもかかわらず、この地域は入っていないのです。そういうところを残している。これは、多分市のほうもかなり苦労はされているのだという気がします、なぜかをご説明していただければと思います。

#### 保健所保健総務課長

そちらについては、今、医師会と話しているのは、救護所については、トリアージといいまして、重症、中等症、軽症かを切り分けるのが主な仕事ですということで、そこには医師の力が必要になります。医師は、やはり全体的に絶対数が足りていないということと、どんな想定外の被害が起こるかを勘案してといいたいでしょうか、重傷者については命にかかわることなので、トリアージした後、すぐ病院に入ってもらって手当てをすることが必要となります。学校の拠点についてもそれなりの対応ということで、医薬等集めて拠点として充実させるようなことを考えている一方で、やはり搬送についての課題が残っているところがございます。

なので、病院拠点に全医師の力を集結させて、どれだけ被害者が出るかわからない想定のをさばいていきたいというのが1つと、1つには、全体的に人数が足りていないということが理由ですので、それを打破しないと、拠点をふやすには及ばないだろうと。拠点だけ持っていて、実際にそこに人が入ったときに不明瞭なところがあるということから、今、新たな体制を組めない状況となっています。

#### 玉川学園町内会

確かに外科系の医者は足りていないのでしょうか。でも、我々が望むのは内科系の医者です。例えば、感染症だとか、あるいは持病を持っている方たちのお話をしているのであって、大けがをされて骨折した、そういう話ではありません。であれば、内科系の医者は結構いらっしゃるのです。そういう方たちまで含めて、なぜ医療拠点をつくらなければいけないのか。医者の中には、はっきり言って、医師会に反発して、おれは、この地域を守るのだというふうに言っている方もいらっしゃいます。ですから、必ずしも医者を集めて何とかするのが正しいとは思えないのです。我々としては感染症が一番怖いと。かつ、高齢者が多いですから、持病を持っている方は医者がいない状態でどうなるのだと、そういう不安を持っていらっしゃる方が大勢います。そういうところをカバーした上で体制をとれるといいという気がしていますので、ぜひその辺をもう1度考慮して検討していただきたいと思います。

#### 保健所保健総務課長

確かに流れとしては、もともとそういった小中学校を救護拠点とする歴史

がりましたが、3・11の震災を境に、そのときに何が起きたかという、周知としては小中学校を救護所としていたのですが、結果として病院施設に人が流れたといういきさつがあります。2011年、東日本大震災の病院機関に集中する傾向が強かったことから、東京都の地域防災計画が見直されました。それに伴いまして市の防災計画も修正して、そもそも学校拠点にあったものを、今、病院と言われている拠点に移したゆえ、先ほどおっしゃっていただいたように、それぞれ病院で足りないところがあって、それはそのまま学校を残したところがあります。それが3カ所あって運用しているところでありますけれども、そこに人を充てるのが、今の段階で打ち合わせしているところでは精いっぱいだったことの方から、そこを充実させる一方で、空白地区については、先ほど申しましたDMATの派遣、キャラバンチーム、移動病院みたいなものをそこに送り込むということをあわせて考えさせていただいているところです。

### 玉川学園町内会

先ほどから、玉川学園地域は避難施設への避難者数が町田市の中で非常に多いというお話があって、できれば備蓄品を収容するという話がありました。避難者が多いということは、当然医療が必要な方もそれに比例して多いはず。ということは、この地域は、ある意味、災害時に医療拠点を第1に設けるべき地域であるということが論理的にも言えるのではないかと思います。が、いかがでしょうか。

### 保健所保健総務課長

避難者が多いとは聞いていますし、そういう意味では比例するところの要素も多分にあるのかなと思っています。その辺については、先ほどの答弁と重なりますが、そういったことを加味しながら、今後、どんな体制を組んでいくかは医師会と話し合いたいと思っています。やはりこのような甚大な被害が起きたものについては、情報をいただいて、場合によっては消防、警察、自衛隊が動いて、救出されて、それが病院に搬送されるということも含め、実際に地域の医療に目を向けていけないところだと思います。

また一方で、トリアージを行った後、大勢でかかれば、何人か余剰ができ役目を終えた医師がすぐさま地域に戻れるようなことを考えていて、そこは地域に戻って、状況は違いますが、医療については平時に近い形で各クリニックを開けるようなことも早急にやらなければいけないという話もしているところです。

### 玉川学園町内会

今話を聞いて、あと1点、条例等で災害時に個人が車を走らせることが

できないということだと、我々がけが人をリヤカーに乗せて、車椅子あるいは担架に乗せて拠点病院まで運ばなければいけないのです。そうすると、それは可能ですか。日中は高齢者しかいませんので、そういう地域特性を考えた場合、かなり無理なことを強いられているような気がしまして、そこも配慮していただきたいです。現実的に運ぶことはできないということだと、やはり拠点そのものをここへ持ってこなければ難しいという気がしています。例えば、この地域だけは病人やけが人を車で輸送することを許しますという話であればかなり事情が変わってくるのでしょうかけれども、それは現実的ではありません。そういう意味で、もう少し真剣に考えていただきたいと思います。

#### 4 市民の文化活動のための場所について

町田市は、市民の文化・芸術活動の発表や練習、活動の場所が少ないと感じます。横浜市は各区・各地域に地区センターがあり、市民が日常の芸術活動をそこで行っていると聞きます。町田市でも、そうした場所を増やすことを目指した中長期計画はありますか。

##### 【回答】

##### 文化スポーツ振興部長

横浜市の地区センターは全部で80カ所ありますので、市民約4万7000人当たり1カ所という割合で施設があることになります。

一方町田市には、6つの市民センター、6つのコミュニティセンター、現在工事中の玉川学園コミュニティセンターを合わせると、横浜市の地区センターに相当する施設は13カ所あります。これは、市民約3万3000人当たり1カ所という割合になりますので、横浜市と比べ、町田市民が文化活動のために利用できる場所は充実していると認識しております。

このような背景からも、市民の文化・芸術活動の場所をふやすことは、現在予定していません。

##### (司会) 地区連合会長

横浜市はたしか人口が360万人だったですね。私も横浜市に行くと全然スケールが違うので驚いたのですが、町田市と横浜市を比較してしまうと、町田市が非常に貧弱だというのはどうしようもないなという気がしています。13カ所あれば何とかできるように思うのですが、いかがでしょうか。

##### 町田市長

港北区は、現在の人口は32～33万なのですが、図書館は全区に1つです。うちは43万で8つぐらい図書館があります。区長をやっていたときには図書

館をつくる計画は全くありませんでしたので、現在も18区それぞれの区に1カ所です。地区センターについては、5万人に1カ所をめどにつくる計画をしています。私が港南区の企画課長だったときに新しい地区センターをつくるという仕事をしていましたが、そのときはまだ1カ所しかなくて、20万以上の人口があったので、あと2つつくるという仕事をしていました。

ですから、今の実態の話というのは、確かに実感としてそうだと思います。正直言って、横浜のように人口が非常に多くてそれほど施設がないところと比較してもしょうがないかと思いますが、町田以上にたくさんあるところがあるのかは調べていないのでわかりませんが、町田市はそこそこ数があるのかなと思っています。

## 5 南大谷地域の交通環境整備について

南大谷交差点と成瀬三ツ又を結ぶ都市計画道路について、進捗状況を教えてください。

### 【回答】

#### 道路部長

町田都市計画道路3・4・34号線【本町田金森線】の南大谷地区、約1.1kmと、町田都市計画道路3・4・9号線【成瀬けやき通り】の約0.3kmの進捗状況につきましては、2015年度から警視庁や小田急電鉄株式会社などと協議を行い、事業実施に向けて検討を進めております。また、道路整備に向けた地質調査、構造物の抽出及び費用便益調査なども実施いたしました。

2018年度は、小田急電鉄株式会社と協定を結び小田急線高架アンダーパスの工法検討を行い、最適工法を決定いたしました。

2019年度は、事業認可取得に向け、まずは、町田市有地の測量、そして、小田急線高架アンダーパスに伴う河川及び周辺道路との整合など、東京都と協議を進めております。

2020年度は、用地取得に必要な測量を進めるとともに設計の深度化を図り、事業認可の取得を目指してまいります。

事業認可取得後は、用地取得を進め、その進捗状況に応じ、道路工事に着手してまいります。

### 《質疑》

#### 南大谷町内会

毎年この問題を質問させていただいています。なぜかというところ、ここにも出ていますが、南大谷小学校の生徒が通学路として使う川沿いを横断しなければいけない感じなのです。しかもこの道路は車の通行がすごく多くて、信号があるところでないといけないと危なくて通れないぐらいです。そういう意味で、今

の話で大体わかりましたが、何とか早期にこの計画を実現してもらうように、小田急電鉄さんとももちろんそうですが、最後のゴールがいつというふうに早く決めていただきたいのが要望です。

## 道路部長

これは昨年度もいつになったらできるのだという話をいただいています。去年もお話はしているのですが、近年行いました都市計画道路がどのぐらい年数がかかったかをもう1度、お話ししたいと思います。金森のほうで都市計画道路3・4・34号、町田街道から藤沢街道まで工事を行いました。こちらは約400mの区間ですが、事業認可を取得して、用地買収を開始して、実際工事が終わるまで9年かかっています。もう1カ所が3・4・37号線、鶴間の熊野神社のほうで工事を行いまして、500m強ですが、8年かかっています。この路線は、先ほど言いました3・4・34号線と3・4・9号線を合わせますと距離が1.4kmということで、こちらの倍ぐらいあります。ということで考えると、やはり事業認可をとってから実際に開通するまでは十数年かかるのではないかと思っていますので、2030うん年になるのではないかと思っています。できるだけ早く工事を進めるように我々も頑張っています。

## 第2部 市政全般に関する意見交換

### 市長からの市政報告

それでは、第2部ということで、市政報告をさせていただきます。

最初に、先週の土曜日にドイツから帰ってきました。ドイツでユニセフの会議に行っていました。世界の国から80カ国くらいの人に来て、首長が集まって会議をやりました。子どもたちのサミットもやりました。子どもにやさしいまちのサミットについては、日本からは町田市が代表というか、1市だけ行きました。日本の5市が子どもにやさしいまちの検証、どの部分でやっていて、どの部分が足りないかをチェックするユニセフの仕事に協力をしています。その一環として、ドイツのケルンで会議が開かれたということです。

町田市の子どもは、高校生と中学生が1人ずつでした。中学生の子は、議論に参加した二十何人のお子さんたちの代表として、最終日に締めくくりの演説をしていました。子どもの権利についての議論をしてまいりました。

私どもがそういうところに行くことになったのは、中学生や高校生から意見を直接聞く会をつくったり、あるいは11月に市の事業を評価する事業評価というものがあるのですが、そこに高校生のチームが参加してやることになったので、そういったことが日本ユニセフ協会から評価されて、日本の代表で行ってくださいということになったと聞いています。

もう1つは、子どもの参加ということと同時に、保育や子どもの遊び場、

居場所、そういうものがいろいろな種類を展開していることも評価のうちになっています。ころころ児童館というものがあるのですが、あのような児童館を新しく建設している市はあまりありません。聞いた話では全国で1700あるうち2つしかない。1つが町田市で、1つは和歌山県です。それ以外は、小さい児童館はやめている市がほとんどです。そういうこととか、冒険遊び場みたいなものを一生懸命あちこちにつくっているのも、首都圏でもそれほどありません。それから、学童保育はどこもやっていますが、そのほかに「まちとも」をやっています。これもそれほどたくさんあるわけではないので、そういう意味では、今言っただけで、小学校の低学年にすると、学童保育があつて、「まちとも」があつて、冒険遊び場があつて、幾つかの児童館があつてということなので、選択肢をたくさん用意しているのも評価の1つのようなのです。

それから、子どもの話で言うと、10月1日から幼児教育の無償化が始まりました。まだ実際の具体的な事案は来ていませんが、町田市でも当然スタートしていきまして、3歳児以降は無償ということになります。全部無償ではなくて、3万7000円ぐらいからは自分で出してくださいという制度になっていきまして、それ以下は払う必要がありませんということです。もちろん保育園も3歳から上は無償となっています。

0、1、2歳は、無償というのは所得制限がかかっています、ある程度の水準以上の収入があると無償というわけにはいかないということです。

それから、子どもで言えば保育園の待機児童ですが、今年は4月時点で127人ということで、去年より20人ぐらい減ったのですが、まだまだいます。特に集中的に南町田とか鶴間とか、あちらのほうが異常に多くて、今年、来年と、ここで150人ぐらい何とかつくろうとしていきまして、再来年4月の待機児童解消を目指しています。いつもそうなのですが、南地区に67人の待機児童がいて100人供給しても、また出てしまうのです。それは、そこそこに保育ニーズは上がっています。保育の年齢、つまり0から5歳の人口は下がっていると。先ほど言いました待機児童127人はほぼ0、1、2歳なのですが、この人口は下がっています。ところが、保育園への希望は上がっています。ですから、申請率が上がっている状況になっています。

もう1つは、近くにそういうものができたということで申請が伸びてくるという要素があるのは、供給が需要を喚起するみたいな要素が若干あります。メインでは、預けたい率がふえているのが一番大きな要素であります。そういう意味では、再来年の4月で何とか待機児童解消を目指しているということでもあります。

それから、町田第一中学校は再来年9月に新しい校舎で勉強することになります。ですから、今の1年生は3年の2学期から入れますが、今の2年生、3年生は工事中のまま卒業することになるようなスケジュールになっています。

す。ここは町田市で始まって以来の55億円という、普通の学校よりも多くのお金をかけて工事をしています。規模が大きいということと、事業が難しいということと、建設単価がどんどん上がっていて55億円かかります。

それから、中学校給食の話がありまして、9月から中学校給食の無料試食会をスタートしていきまして、お弁当を給食に出して食べていただくということで、今までですと1割の人がお弁当を頼んでいました。ですから、これを2割、3割に上げようということをやっています。ただし、1週間無料でお弁当を出していますので、7割、8割の申し込みがあります。ただ、その後、また有料のお弁当をどれだけ頼んでいただけるかはなかなか難しいと思いますが、何%かは多分増えると思います。

それから、教員の負担軽減、働き方改革、今、部活指導員を中学校に配置しています。ただし、数が足りないのので、先生は残業が減るといってもそれほど減っているわけではなくて、全然減らない人も結構います。

それから、中学校の話、小学校も共通ですが、今、タブレットを使った教育に移行し始めました。これは、今5人に1台ぐらいは各校でタブレットを使って授業をしています。町五小と小山ヶ丘小学校と堺中学校の3校は最大学年人数分のタブレットを配備しており、学年によっては1人1台にタブレットということモデル的にやっています。先生が熱心だということもあって選ばれているのですが、これから全校、少し時間がかかるのですが、1人1台タブレットを使って授業をすることになると思います。今のところ、5人に1台だけでも20億円ぐらいかかりそうなので、もう少し頑張らないと1人1台にはならないと思いますが、実際に私も町五小の授業を見たのですが、特に理科などは非常にわかりやすいと思いました。実験のデータを入れるだけでグラフになって、比較できるような授業をやっていますので、数値をグラフに置きかえるとか、プログラミングの練習をするなど、かなりいろいろなことができるので、これは非常に有効ではないかと思います。

グーグルが一生懸命プログラミングを使った授業の開発に協力しています。こういう開発は、町田市が全国で先頭を切ってやっています。そういう意味では、少し教育の面でも先に行こうということです。ただし、学力テストは東京都の平均の少し下です。ここを抜けない限りだめだなと思っています。そこは教育委員会でないからあれなのですが、もう少し頑張らないといけないと思います。

それから、高齢者の話ですが、特別養護老人ホームの入所待ちの状況は大分改善されています。昨年度、木曾山崎団地の中に定員90人のグランハート悠々園がオープンしましたが、大きな施設の整備はここが最後で、今は認知症高齢者グループホームなどの地域密着型サービスの整備を進めています。ちょうど今から10年前は、特別養護老人ホームに申し込みをしてから1年以内に入所した市民の割合が1年以内のものは45%でした。昨年度のデータで

は90%、10人のうち9人は半年、1年以内で入所できています。かなり高い率なので、町田市の方は普通だと思うのですが、このようなデータで特別養護老人ホームに入所できる地域は、東京都内だと立川市から東側の市区ではありません。23区や武蔵野市になると、都内で特別養護老人ホームに入所できることはありませんので、栃木県、群馬県まで行かないと入所できない状況があります。町田市の場合は市内で入所できる、それも1年以内にほとんどの方が入所できる状況ですので、他市や23区と比べると全く違う状況かと思えます。

高齢者住宅の問題はいくかあります。特に特別養護老人ホームは法律上の規制、厚生労働省の規制が厳しいため起こりづらいですが、高齢者住宅では入所した方、あるいは家族の方が困る状況が起きています。民間の高齢者住宅の場合は規制が特別養護老人ホームと比べて厳しくないのですが、そういうことが起こってしまうことがあります。ですから、本当は特別養護老人ホームの整備をもっと進めていかなければいけないのですが、そうすると費用が多くかかります。消費税が10%になったばかりで恐縮ですが、12%にするとか、または、皆さんからいただいている介護保険料を引き上げるかしないと費用が賄えません。そういう原資がないことには、介護人材の確保や待遇改善というのはなかなかできないかと思っています。

突然飛びますが、前年度の決算の数字を見ていただくとわかるのですが、18、19ページに介護保険の会計が書いてありまして、ここで見ていただくとわかるように、下のほうに円グラフがあって、四角い説明欄がありまして、介護給付にかかるコストは50%を国と東京都と町田市の税金で、残りの半分は被保険者の方々の保険料で賄っています。ということで、第1号、第2号で半分、それから国・都のお金で全体の3分の1、そして市の税金で残り、半々になっています。これを見ていただくと、介護つき住宅の介護費用をもっと投入して、人を入れて虐待を防ぐためには、この円グラフ全体を大きくする、もしくは税金をたくさん投入するというので、円グラフを大きくする以外手がないので、全体としてそれぞれの分担を多くしていただくしかないかと思っています。税金の引き上げの話をしなればいけないのもしようがないのですが、そういう事情を抱えていて、私はまだなっていないのですが、75歳以上の後期高齢者、実際には80歳以上になるとかなり介護の率が上がりますので、団塊の世代が75歳以上になる2025年以降は、かなりこの問題は深刻になると見えています。

それから、施設系の話を少しします。薬師池公園の薬師中学校の手前、今井谷戸から上がっていったところにウェルカムゲートというものを整備しています。それから、野津田公園は、今、1万席の座席を1万5000席にする工事をしています。これは再来年2月にできる予定です。それから、鶴川駅ですが、駅の南側は畑なのですが、土地区画整理事業の都市計画決定が8月に

終わりましたので、うまく事業認可がとれれば2020年度から実際の区画整理事業に入ります。5年後に供用開始の予定でやっています。あそこは北と南を結ぶ橋をつくる駅になります。その計画が動き始めました。それから、南町田のグランベリーパークですが、来月13日にオープンしまして、10月からは平日も急行がとまるようになりました。それから、スヌーピーミュージアムが12月14日にオープンします。ここについては、かなり宣伝も進んでいますので、お客さんはたくさん来そうであります。年内は混むと思うので、電車で行っていただきたいと思います。

それから、清掃工場は、今はピットの工事をしています。かなり大きな工事をしています。これについても2021年12月ぐらいに完成して、翌月から稼働を始める予定です。建設費としては大体300億円ぐらいかかっています。新庁舎が150億円だったので、その2個分かかっています。ちなみに、新庁舎の借金の返済と清掃工場の借金の返済があと5年後ぐらいに重なってきますので、大分借金返済が多くなりそうです。かなりの部分は借金でつくっています。清掃工場は環境省の補助金が80億～90億入りますが、それでも200億円近くは借金ですので、この後もそういうものを抱えたまま仕事をする事になると思います。将来もうこれだけ大きな仕事はないと思いますので、何百億をかけてつくっていきます。

芹ヶ谷公園は、旧高ヶ坂都営のところは、グラウンドはもう使えるようになりました。あそこはトイレも今度新しくつくっていますので、下のトイレが混んでいた場合は上に行けばいいようになりますし、駐車場もできました。20台ぐらいとめられますので大分便利になりました。どうしても車で冒険遊び場に行きたい方は、お金がかかりますが、有料駐車場にとめてください。

## 《質疑》

### 南大谷町内会

今日の市政懇談会で南大谷町内会からは、南大谷地域の交通環境整備ということで、先ほどの成瀬の道路以外にもう1つ、土砂災害防止法に基づき東京都が調査、指定した土砂災害警戒区域には南大谷地域の学童等が通学路として使用する道路、歩道が含まれています。土砂災害警戒区域に指定された町田市が管轄する道路、歩道の安全対策はどのようになっていますかと最初に入れたのですが、市民協働推進課の方が「議題が多いので、申しわけないけれども、外してもらってもいいですか」と言うから、「その前に回答をくれるならいいですよ」と言ったら、「そうします」と言われたから、たしか1カ月半ぐらい前にお邪魔して、私が今言った東京都からもらった地図をコピーしてもらって「このところが安全対策をしてほしいのですよ」と。そこはどこかというと、私の家の斜め前の横断歩道なのです。六小や二中の生徒が毎日通っているところです。ここで今言っているのは何かというと、崖

で、高さが5 m以上で、傾斜度が30度以上。そこが危険区域だということです。

ここから道路部長さんに文句を言いたいのですが、2週間前に電話がかかってきて、「文書でお出しすればいいですか」と。「もちろん出していいですよ。ただし、今日の10月24日前にください」「はい、わかりました」と言ったけれども、ナシのつぶてなのです。多分、私が想像するに、今度、11月22日に市連の市政懇談会が町田市の市民フォーラムホールであって、その議題にもこの土砂災害防止法が挙がっています。それで、そのときに答えるのかなと。でも、それでもいいですが、一言、「済みません、それで答えるので今回は回答しません」などと言ってくれなければいけなかったのに、それがなかったの、それだけがちょっと不満です。

## 道路部長

申しわけございません。その回答については、私は見えています。決裁が回ってきました。随分前ですね。2週間ぐらい前ではないですか。どこかで手違いがあったのではないかと思います。そのようなことになっていけば、お答えするのは当たり前なので、何か手違いがあったかもしれません。これから回答をお出ししたいと思いますので、そちらで回答をごらんいただくような形でお願いいたします。

あらすじとといいますか、回答なのですが、基本的には、今、土砂災害特別警戒区域にあるかと思うのですが、それが町田市の土地であれば、何かやらなければいけないというのがあります。ただ、それが市の土地ではない民地であった場合については、基本的には市では何もできません。あくまでも土砂災害警戒区域というの、危ないですから逃げてくださいというのが趣旨です。そのようなところについては危険ですよということを知らせることが趣旨ですので、場合によっては、そこが通学路になっているのであれば、例えば通学路の場所を変えるとか、そのような手を使わなければいけないのかもしれないのですが、いずれにしても、ハード対策ではなくてソフト対策が土砂災害警戒区域の趣旨になるので、市では、その交渉を行うことはできないという回答だったと思います。

## 南大谷町内会

先日の台風の関係で、警報が発令されていきました。SNS等を登録している人たちはすごく鳴って、うるさいぐらいでした。ただ、そういうものを持っていない高齢者の方たちに防災無線が流れているのですが、それですと夜間の雨が降っているときは音が聞こえない状況なので、それは今後どのような対策で解決されていくかをお聞きしたいと思います。

## 防災安全部長

1つは、今日お配りしている資料の町田市情報の裏を見ていただくと、フリーダイヤルのご案内が出ています。こちらへお電話していただくと防災無線と同じ内容が聞けます。防災無線の放送は屋外で鳴らしていますので、大雨のときなど、窓を締め切ったところで聞き取ることができないことは想定しています。ただ、何か鳴っているなというときには何かの情報を市が出しているという合図ですので、ぜひここにアクセスをしていただいで聞いていただくのが1つです。

あと、今、町田市だけではなくて、行政から防災が必要な情報を発信したときにはマスメディア各社に情報が行くようになっていまして、災害のときは、Lの字を逆にした枠がテレビに出るのはご存じだと思うのですが、あそこに情報が出るようになっていまして。ぜひこのフリーダイヤルをお近くの高齢の方にもお知らせしていただきたいのと、テレビではそういった情報が流れるようになっていまして、大雨のときは、ぜひテレビをつけて注意していただくというのをお願いしたいと思います。

## 南大谷団地自治会

この間の台風のときに、私は都営のところなのですが、洪水ハザードマップでは南大谷小中学校には行ってはいけないと言われていて、何となく町田六小みたいなイメージだったのですが、流れてきたのは、町田一小、四小、五小、サン旭と言われてしまって、近所のおじいちゃん、おばあちゃんたちが混乱してしまって、どうしていいかわからないというのがありました。また、この間、まあちの運営委員会に行ったら、一小の校長が、初めて避難所を開設したみたいに言っていました。そんな感じで混乱していたみたいなので、ぜひ早目に町内会長や防災担当の方に、何のときにはどこに行くということの避難指示や案内をきちんとしてくれるとすごく助かります。

あと、この電話番号は、私は今日初めて知りました。アナウンスは全然聞こえないし、情報が怖くてテレビを消してしまう方もいます。なので、こういったものの情報格差がないように、おじいちゃん、おばあちゃんにもわかるように、大いにアピールしていただきたいと思います。

## 防災安全部長

まず1つ目の避難施設はどこをあけるかということですが、指定しているところはたくさんあるのですが、崖地だとか川沿いだとか、浸水の想定が出ているところの近くで優先的にあけるところを決めていまして、そこをあけて、メールなどでどこがあきますとお知らせしていますので、お知らせの仕方を少し工夫したいと思います。

あと、フリーダイヤルのご案内がちゃんと行き届いていないのではないか

ということです。いろいろなところで市民の皆様とお話をするときには、防災はみずからの行動でみずからを守るのが基本ですが、それには情報をしっかりもらわないとというのはいつも聞くところでして、フリーダイヤルのご案内もしているのですが、やはりまだしっかり届いていないということです。今まで以上にいろいろなところでフリーダイヤルのご案内をさせていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

テレビも、台風が来るというのは、大体、町田市に被害が出そうな前の日ぐらいにはホームページやメールの登録をしている方向けのメールにも情報を入れます。そこにも気象情報に注意してくださいとは送っているのですが、怖くて見ない方もいらっしゃるということです。見たほうが安心できますし、見たほうがちゃんとした行動ができますということも含めまして、丁寧にご案内できるように工夫したいと思います。

## 玉川学園町内会

コミュニティセンターのデッキの工事の件ですが、これは一時入札になって延期になっているのですが、その後どうなっているか、わかればお答えいただきたいと思います。

## 道路部長

今年の4月から工事を発注しています。4月、6月、8月、3回出しているのですが、両方とも入札参加者がいませんでした。というのは、やはりいろいろな背景があるのですが、今、非常に技術者が不足しています。原因は、これも推察ですが、オリンピックだと思えます。オリンピック工事の関係に人がとられてしまっている。もう1点は、鋼材がとんでもない形で高騰しています。これもやはりオリンピックの影響だと言われています。ということで、うちのほうで出している予定価格が合わない。もう1つは、それを行う技術者が不足しているということで、3回、入札の不調というのではなくて、入札ができなかったという状況になっています。

次は、1月にやる予定です。1月になると、ある程度、今、オリンピック関係の工事が終わってきているので、少し業者さんも余裕が出てくるのかなという問題があること、あるいは予定価格についても、今、実勢価格で金額の見直しをしています。少し金額を上げた形でもう1度発注を出すということで考えています。その業者が決まれば3月議会で決まるような形になります。それまでは仮契約になるので、3月議会で決まった後に実際に着手ということになろうかと思えます。1年おくれの状態になっています。金額も大きいので議会案件なので、今の予定では、12月にかける予定です。

## 玉川学園町内会

ということは、本体とでき上がりがずれる可能性があるのですか。

## 道路部長

ずれます。本体は再来年の5月だったと思いますが、今うちのほうは9月の予定です。ですから、ずれは生じてしまいます。申しわけありません。

## 玉川学園町内会

全然関係ない分野なので余りよく知らないのですが、高騰している、技術者がいないということであれば、延期して安いタイミングでつくられたほうがいいのではないですか。というのは、市の財政が逼迫しているという話でしたので、わざわざ値段を上げて早くつくる必要はなくて、何年か後にずらして安い時期につくられたほうがよろしいのではないかという気がします。それほど急いでつくってほしいと願っている人がどれほどいらっしゃるかわかりませんが、無理してつくる必要はないのかなという気がします。

## 道路部長

ありがとうございます。いろいろな考え方があると思います。実際には今値が上がっていますが、もしかしたら下がらないかもしれないのです。その話があることと、やはりコミュニティセンターとデッキは一体で一緒にできないといけないものだと思います。それが今の状況でこのようなことになってしまっているのですが、できるだけコミュニティセンターのオープンに近い形でデッキも完成させたいという思いで事業を進めている状況です。

## ○閉会の挨拶

最後に結びのご挨拶をさせていただきます。本日はお忙しい中、石阪市長を初め部長さん、あるいは職員の方に大勢お越しいただきまして、まことにありがとうございます。正直言いまして、毎回言っているのですが、回答として、いい回答だったなというのと、そう言っては失礼ですが、言いわけっぽいなと感じましたが、それはさておき、1点だけいいお話をしたいと思います。

実は毎年、市政懇談会で私が南大谷地区の住所整理事業を早くやってほしいとお願いしました。3年前にも石阪市長宛てに、南大谷地区9町内会会長の連名で早くやってほしいと要望書を出しました。それが今年の2019年度第1回町田市住居表示整備審議会で、そこには私は陪席しました。その中で、今現在、金井地区をやっていますが、2020年度に終わるので、その次は2020年度から2023年度で南大谷地区をやっていただけることに決まりました。それが大変うれしいことだと思っております。本当に感謝しています。正式には市議会の中で審議して承認された後ですが、ひっくり返ることはないと思

うので、そのとおりやってくれるのかなと思っています。本当にそれはありがたいと思います。

これで終わりたいと思います。今日は本当にありがとうございました。拍手で終わりたいと思います。どうもありがとうございました。（拍手）

以上